

平成30年3月 2日(金)
平成30年3月13日(火)

子どもへの言葉かけ

SST(ソーシャルスキルトレーニング)

一般社団法人 ころろ相談研修センター
代表理事 杉下 味香

(1)子どもが自己主張した時の対応

<権威的な対応>

- 腹が立って本気で怒ってしまう。
- 子どもが折れるまで、はじめの要求や指示を押し通す。
- 子どもの主張を無視し、思い通りにする。

<力による統制>

- 言うことを聞かせるために体罰する。
- 言うことを聞かせるために脅しを用いる。
- 外に出したり、別室に閉じ込めたりする。

<子ども追従型>

- 一度、言い出したら聞かないので放っておく。
- 自分が折れて、子どもの言いなりになってしまう。
- どう対応していいか分からない。

掃除をしない子どもに先生は
「いつも何で掃除しないだあ！」

ご飯を食べない子どもに母が
「毎日好きなものだけ食べて！」



叱る、語る、放っておく→できないままが繰り返される



子どもが笑顔でできる声かけ

掃除の場合の声かけ

ご飯の場合の声かけ

(2) 提案・交渉

- 子どもに受け入れられるような妥協案を考え提案する。
「どんなお掃除ならできそう？ぞうきんがけはできる？1分だったら？」
- 子どもの考えや反抗の理由を聞き、それを理解し交渉・提案をする。
「ぞうきんがけがしたかったの？」「ほうきの使い方難しかった？」
- 基本的には子どもの意見を聞くが、やり方などに条件をつける。
「ほうきで上手くはくことが難しかったんやね、そしたら太郎君ができると言ってたぞうきんがけ1分ではなく5分がんばろうか？」

- 子どもが納得できるように分かりやすい言い方や絵に書いたりする。



「ほうきで上手くはくことが難しかったんやね、そしたら太郎君ができると言ってたぞうきんがけ1分ではなく5分がんばろうか？」<えー5分長いなあ>「そしたら3分にする？」<3分やったらできる>

- 危険でなく、他人に迷惑をかけないものであれば、子供の主張を尊重し思い通りにさせてみてから再度考える。



子どもの気持ちや考えを聞き、大人が提案し(自分で案を考えられる場合は必要なし)、自分で何をするか考えて選び(自己選択)、自分で決めたことをする(自己決定)ことで、誰かにやらされるのではないので、責任感が芽生え、手ごたえがつかめると自尊心が育つ。

・上手く自分の考えや気持ちをことばにできない場合は、推測して代弁する。

お友達とおもちゃの取り合いになって、「何で悪いことしたのに誤らないの！！」

本人の気持ちを代弁する。↓

「おもちゃで遊びたかったんやね、お友達と仲直りのごめんね一緒にしてみる？」

・学校で花子ちゃんが持っていたぬいぐるみを太郎君が取った。その場面を見た先生は太郎君に「ぬいぐるみ取ったらダメでしょ！」と注意した。

注意する前に聞く。 ↓

「どうしたの？何かあったの？」



学校で花子ちゃんが持っていたぬいぐるみを太郎君が取った。その場面を見た先生は太郎君に「ぬいぐるみ取ったらダメでしょ！」と注意した。



宿題どうしたらできるかな？

学校から帰宅後、いつもなら宿題をするはずがしない子どもに
最初の声かけは？

- 「」
- 「」
- 「」
- 「」

宿題どうしたらできるかな？

学校から帰宅後、いつもなら宿題をするはずがしない子どもに最初の声かけは？

△「はよやりよ！」

○「どうしたの？学校で何かあった？」まずは聞く

△「何でプリント出してるのにやらへんの？」

○「もしかして、どこが宿題かわからへんの？」まずは聞く

△「学校でちゃんと先生の話聞いてないから分からへんねん！」

○「お母さんと一緒にやってみる？」提案

△「全部しいーよ」

○「5問終わったら、お母さんに言ってくれたら確認するよ」条件づけ、提案

△「一人でやりよ」

○「宿題一緒にお母さん見るから、太郎もお母さんの手伝いしてくれる？」条件づけの交渉・提案

強制すると…①

教師

授業に参加
したくない!

子ども

だめ!
勉強よ!

別の教室で
好きなことを
する!

だめ!
一緒に
やるの!

やりたく
ないのに!

わがまま言わずに
やればいいのよ!

ほら、甘やかさずに
強く言えば
やるんだから
これでいいのよ

...

教える側が、強制すれば活動に入るということを学習している。

「大人は、話を聞いてくれない」「自分の気持ちを分かってくれない」と考えるかもしれません。

強制すると…②

授業に参加
したくない!

だめ!
勉強よ!

別の教室で
好きなことを
する!

だめ!
一緒に
やるの!

やりたく
ないのに!

わがまま言わずに
やればいいのよ!

うるさい!

どうすれば
いいの?
怖いから
そっとしておこう

悪ければ、好きなことをできると学習するかもしれません。「大人は、話を聞いてくれない」「自分の気持ちを分かってくれない」と考えるかもしれません。

放っておくと…

授業に参加したくない!

…

別の教室で好きなことをする!

みんなと一緒にやろうよ

好きなことをするんだ!

怒ると怖いね

嫌がっている活動に参加させる必要はない。気持ちを尊重してあげよう

強く言えば、好きなことをできると学習するかもしれません。

本当に気持ちを尊重していることになるのでしょうか？

提案・交渉

授業に参加したくない!

どうしてかな？

別の教室で好きなことをする!

友達と一緒に活動する？

友達と別の教室で活動する？

そんな方法があったのか!

じゃあ友達と別の教室で活動する!

わかりました

これで落ち着いて活動ができるぞ。でも、友達の様子が気になるなあ…

葛藤

(3) ほめる時のポイント

本人にほめ方が伝わっていない例

- お手伝いをしてくれたときに頭を撫でてほめたつもりが、本人は体を触られるのが元々苦手なことで、叩かれると思ってびっくりした。
- 学校の係りの仕事をしていて、みんなの前でほめられた。みんなの前で名前を言われたのが恥ずかしく、次からしなくなる。

ほめ方のポイント

本人にほめ方が伝わるようなほめ方

- みんなの前でほめる、そっとほめる
- ことば、動作やジェスチャー
- シールや好きな遊び

- ほめるタイミングは適切な行動をしている最中か直後に。1時間、1日後では、何でほめられたのかも分からなくなる。
- できて当たり前と思うことでも、いつもより少しでも頑張ったとき（:3回言って聞くのが1回で聞いた、課題の10問中、5問できた）。
- ほめるときの言葉は事実の行動＋気持ちを伝える「お話をせず静かに最後まで聞いてくれて嬉しいよ」「机の上を片付けてくれてすごく助かったよ」（認める・励ます・感謝する・気づく）
- 褒めことばと批判ことばを混ぜない「上手くできたね、もう少し早くできたらもっと良かったのに」→「上手くできて、すごいね」

ほめ言葉

・夕食の食器を用意した

「」

・帰ってきたら手を洗った

「」

・弟と仲良く遊んでいる

「」

・宿題を自分からしている

「」

ほめ言葉

- ・夕食の食器を用意した

「夕食の食器を用意してくれたん、ありがとう。助かるわ。」

- ・帰ってきたら手を洗った

「すごいやん、今日も手洗えてるやん、ばっちりやな！」

- ・弟と仲良く遊んでいる

「仲良く遊べてるね、さすがやなあ。仲良く遊んでいるのを見ると嬉しいなあ。」

- ・宿題を自分からしている

「一人で宿題してるやん、すごいなあ。えっこの問題一人でできたん！やるなあ。」

ほめ言葉のさしすせそ

- 「さ」=「さすがだね」「最高！」「サプライズ！」
- 「し」=「(もともとこの問題)知ってたの？」「信頼しているよ(頼りにしてるよ)」
- 「す」=「すごいねえ〜！」「素晴らしい！」「素敵」
- 「せ」=「正解！」「世界一！」「センスあるわ！」
- 「そ」=「そのとおり！」「そうなんだあ」「その調子！」「尊敬」

(4) よくないことが起こってしまったとき

- 感情的に叱るのではなく、どのような気持ちかを聞き、どうしたらよいのか具体的に教える
- ひとりで落ち着ける場所の確保／場所を変える
- イライラしたときはどうするか選択肢を提示して本人が選ぶ
- 子どもによって嬉しいほめられ方は違うのでほめ方が適切か見直す(スキンシップ・トークン・一緒に活動・好きな活動)
- 目標が難しすぎないか検討する

(5) SST

Social Skills Training(ソーシャルスキルトレーニング)

社会生活や対人関係を営んでいくために必要とされる技能

＜上記を学ぶための指導技法＞

- ・教示:言葉や絵で直接教える
- ・モデリング:見て学ぶ
- ・リハーサル:やってみる
- ・フィードバック:振り返る
- ・般化:どんな場でもできるようになる

これはサリーです

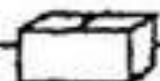


これはアンです



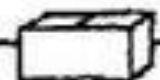
サリーはカゴを持っています

アンは箱を持っています



サリーはビー玉を持っています

サリーはビー玉を自分のカゴに入れました



サリーは外に散歩に出かけました

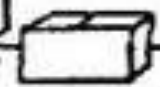


アンはサリーのビー玉をカゴから取り出すと
自分の箱に入れました

サリーが帰ってきました



サリーは自分のビー玉で
遊びたいと思いました



サリーがビー玉を探すのはどこでしょう？

領域	内容
集団行動	学校生活や集団行動などの人間関係に必要な能力
セルフコントロール	行動・注意・衝動性・感情などの自己統制に関する能力
仲間関係	友だち関係を維持したり、友情を深めたりするのに必要な能力
コミュニケーション	会話、話し合い、自己表現など意思伝達手段に関する能力

実施方法

- ①子どもの名前、性別、所属(学校名)、学年、評定者、記入日を書く。評定目的はSSTの能力を知るため。
- ②各項目について「0:当てはまらない」～「3:当てはまる」の4段階の中から選び丸をつける。
- ③集団行動・セルフコントロール(中学生はなし)・仲間関係・コミュニケーションのそれぞれの項目の点数を合計し、それぞれの粗点に記入。注意することは網掛けになっている項目は足さないようにする。
- ④粗点が出たらお子さんの学年、性別にあてはまる換算表みて、左のグラフに記入する。同年齢の集団と比較して平均は10になる。

評価点が出たら

支援が必要な領域は

- ・評価点が一番低めに出ている領域
- ・今の時点で困っているところの領域
- ・本人の負担が少なく始められそうな領域

①上記の内容を考慮して実践関連一覧の中からご家庭で取り組んでみたい内容を2つ選び、ページをスタッフに伝える。注意することは、SSTを実践するときの必要人数が2人、3人、多いものは6人等ありますので、ご家庭で取り組みにくいものは、人数が少ないSSTを選択しなおしてください。(

②スタッフがその内容をコピーし、お渡ししますのでご家庭でも実践してみてください。

③ご家庭でもあまり上手くできなかったり、やり方が分からなかった場合は、随時ご相談にのりますので、ご遠慮なくスタッフの方にお声かけください。

SSTの実践準備

・ねらい

【
】

・準備物

【
】

・流れ

SSTの実践準備

・ねらい

【よく見る、注意集中、視覚運動、順番を待つ、役割を知る、手加減】

・準備物【ティッシュ、コップ、ハンカチ等】

・流れ

スタッフが「今から何か投げるのでよく見て何かを当ててね。
(教示)」

「一度練習をしますよ。(リハーサル)」

「分かった人は手を挙げてください。(教示)」

「今度は交代してみんなが順番に投げて先生が当てる番です
(般化)」

「やってみて、どうでしたか？(フィードバック)」

「おうちでもやってみてね。(般化)」

「学校でも同じようなことがあるから前を見てようね(般化)。」

参考文献

- ・上野一彦・岡田智編著「ソーシャルスキルマニュアル」明治図書、2006。
- ・NPOフトゥーロLD発達相談センターかながわ「あたまと心で考えようSSTワークシート」かもがわ出版、2013。
- ・武田鉄郎編著「提案・交渉型アプローチ」学研プラス、2017。（イラスト等引用）
- ・田中和代・岩佐亜紀「高機能自閉症・アスペルガー障害・ADHD・LDの子のSSTの進め方」黎明書房、2012。